



実践的な手術手技向上研修事業

岡山大学病院 集中治療部

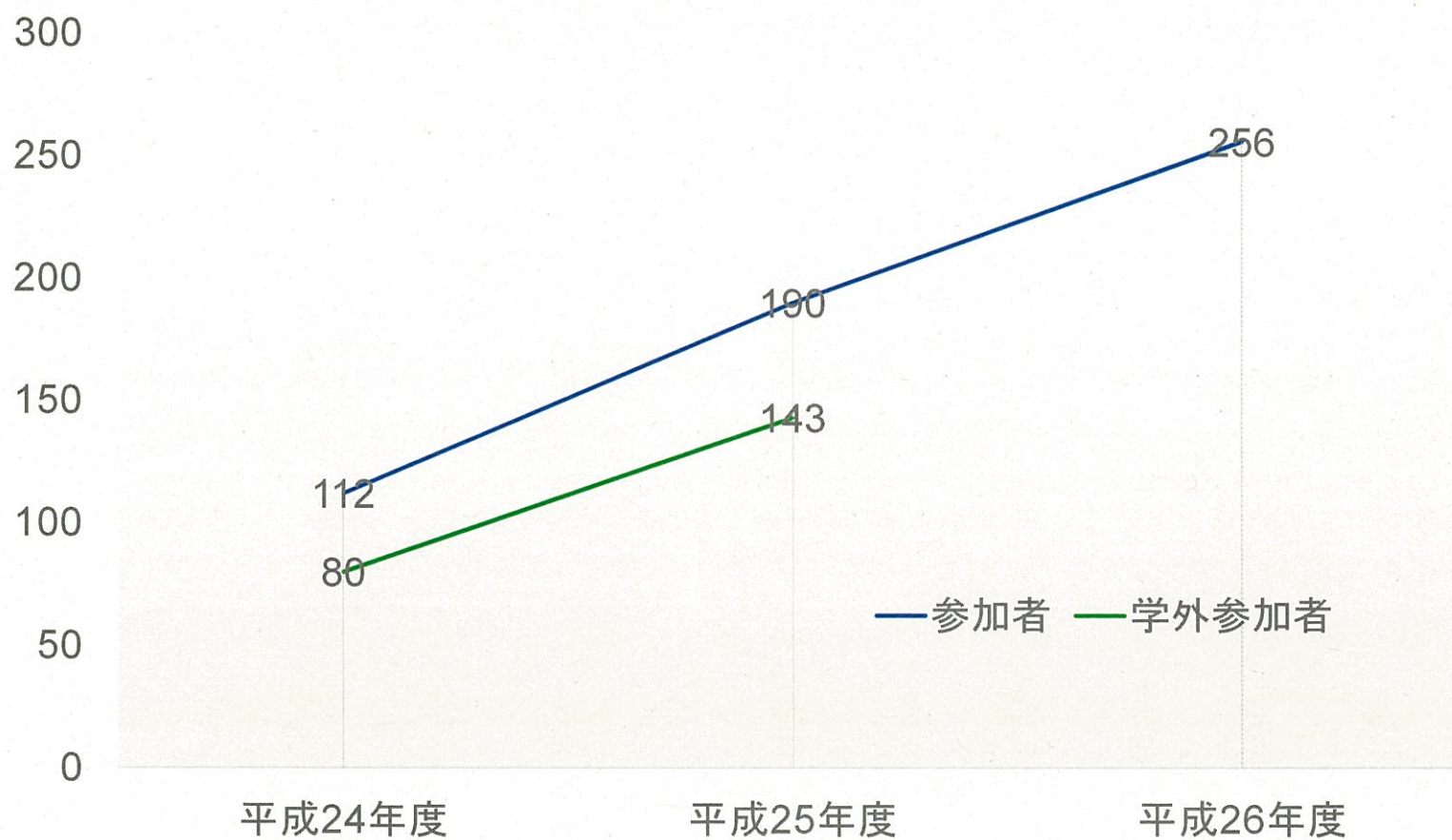
武田 吉正

岡山大学医歯薬学総合研究科人体構成学教室

大塚 愛二

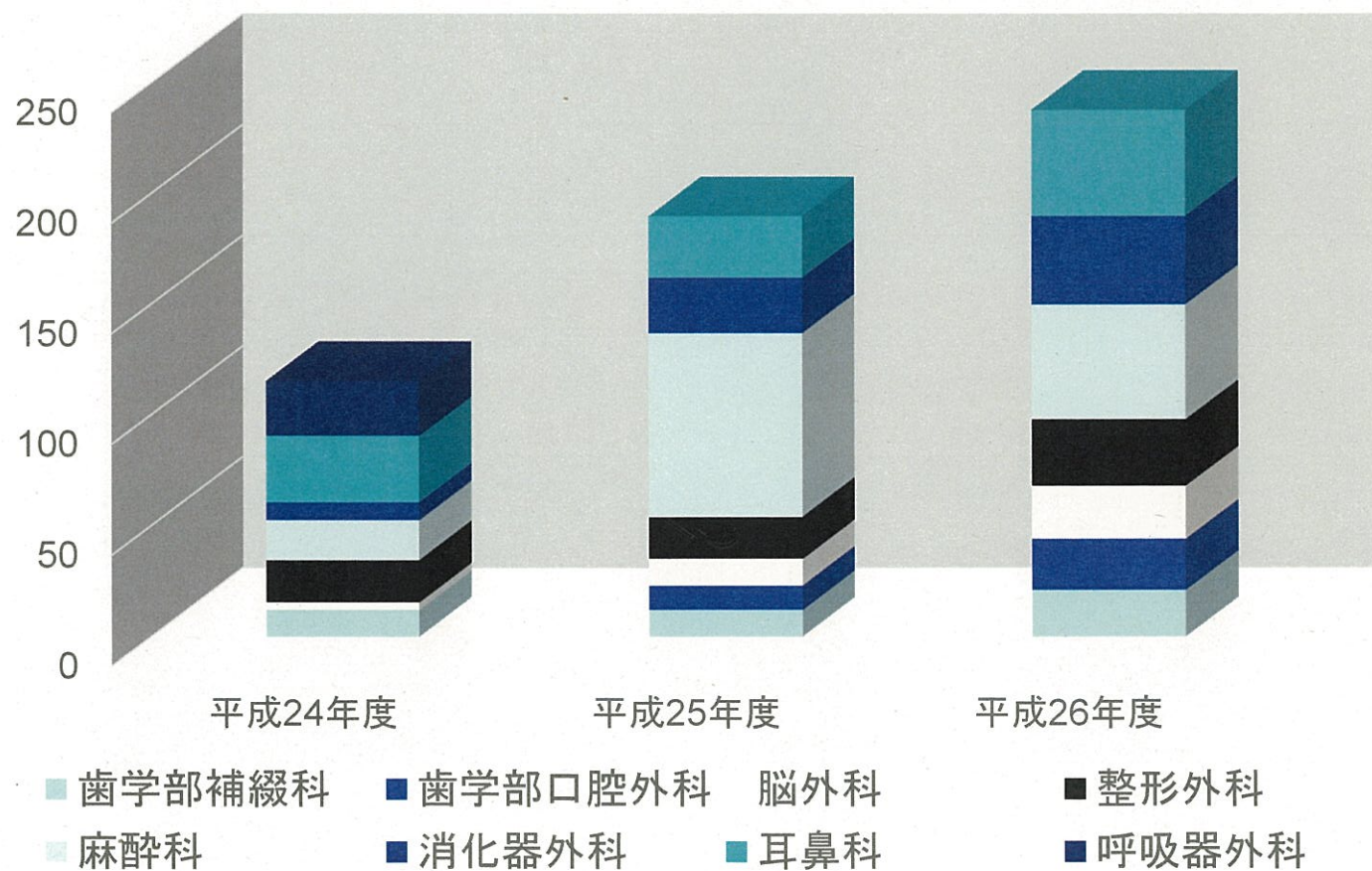


参加者数推移



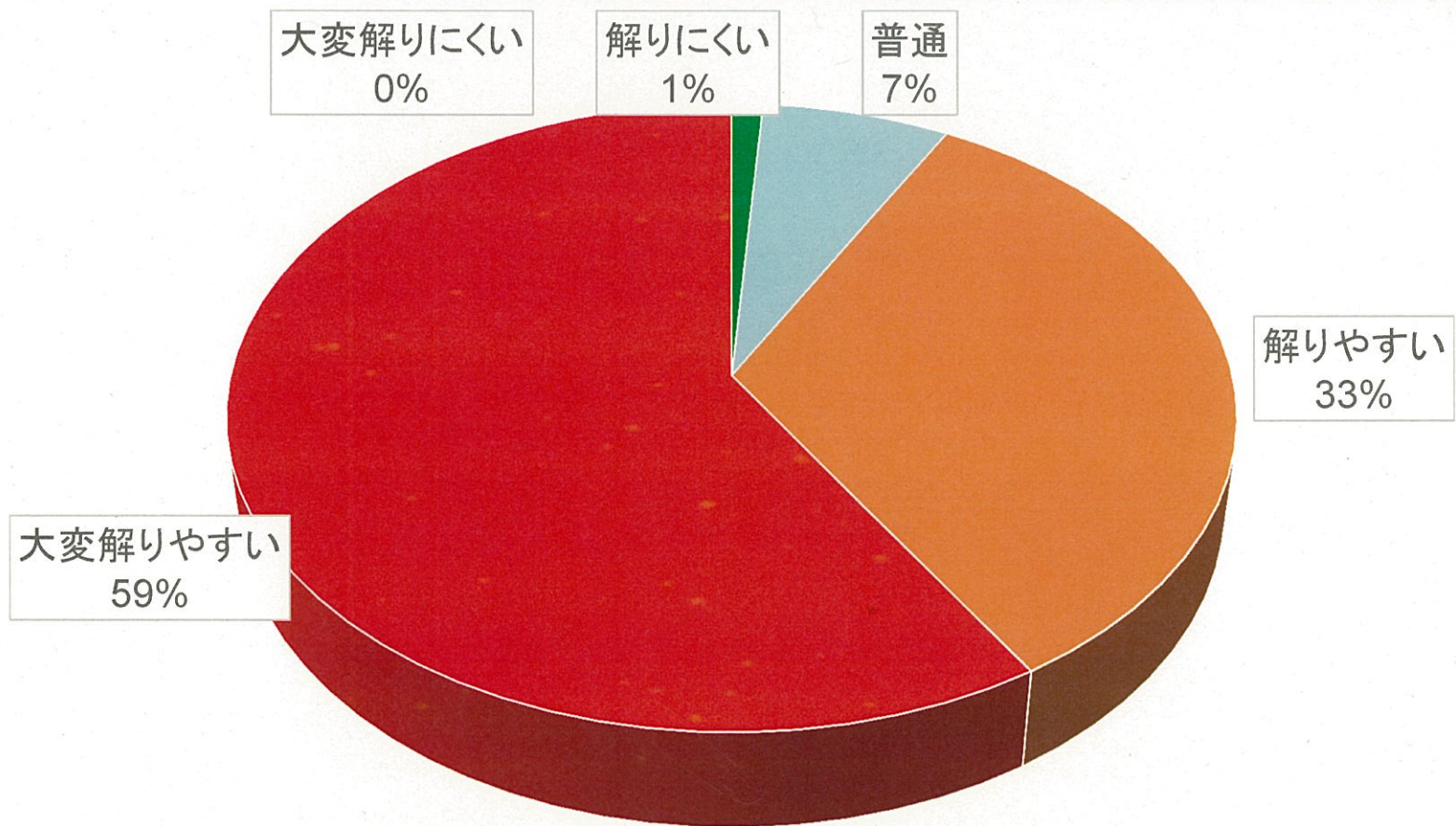


参加診療科の内訳





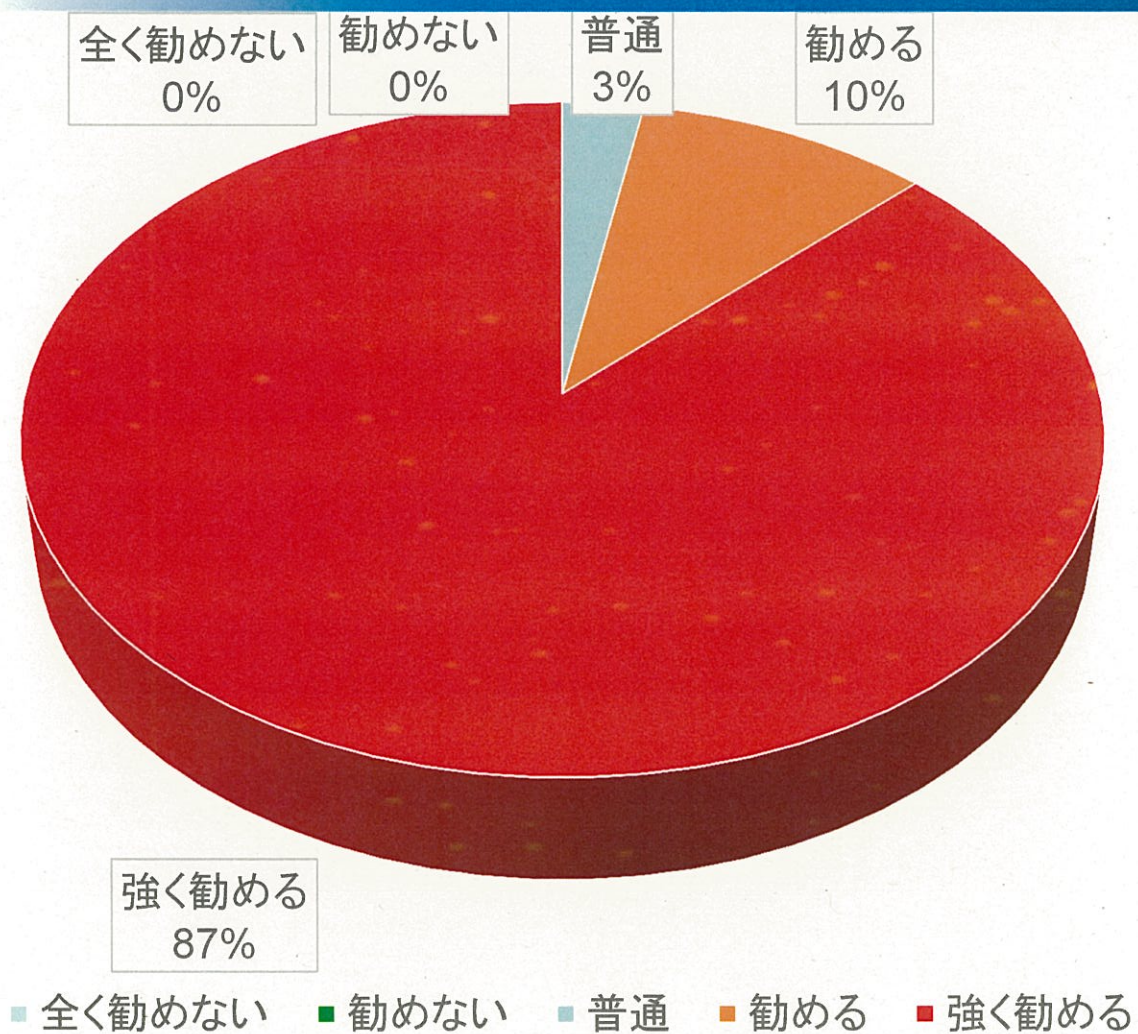
実習はわかりやすいか



■ 大変解りにくい ■ 解りにくい ■ 普通 ■ 解りやすい ■ 大変解りやすい

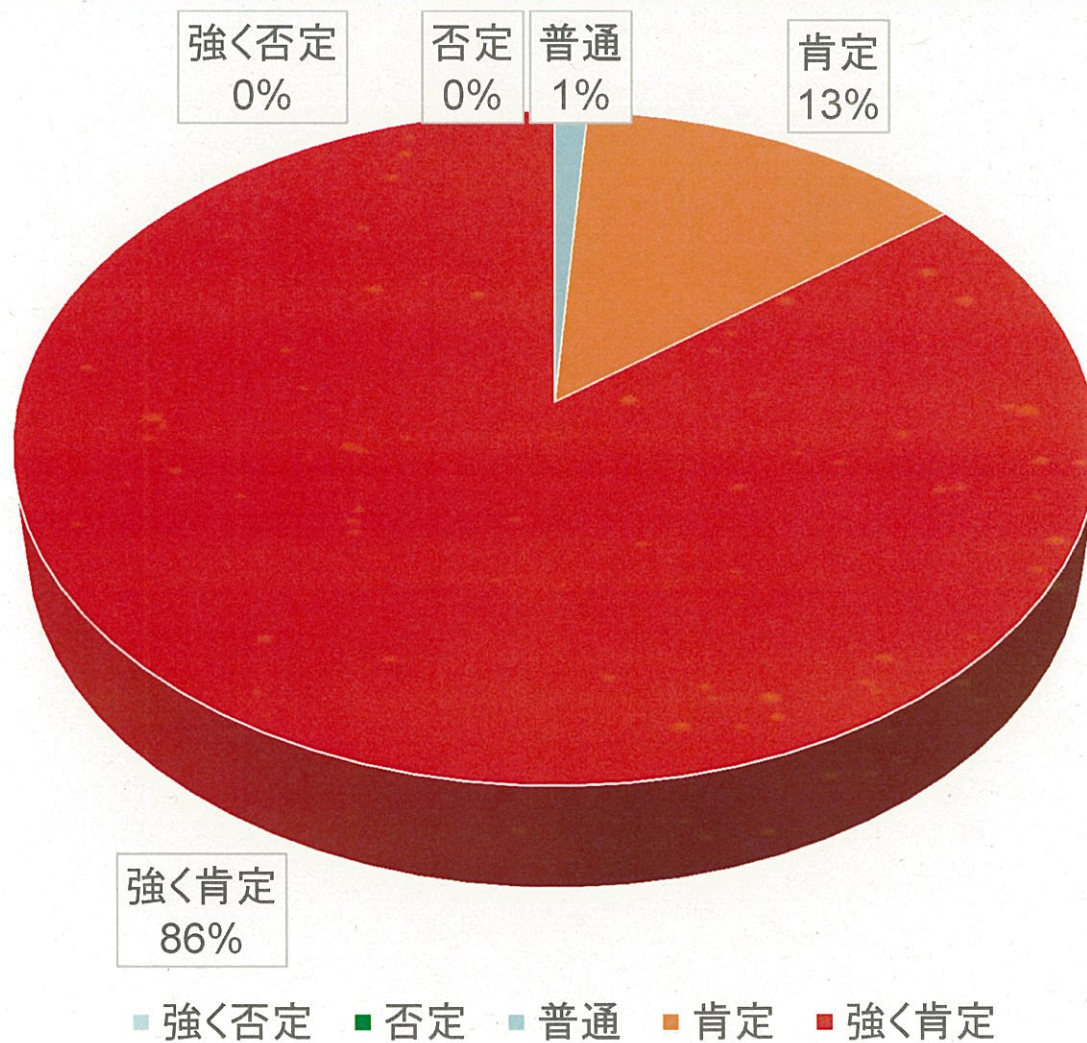


同僚に勧めるか





今後も継続すべきか





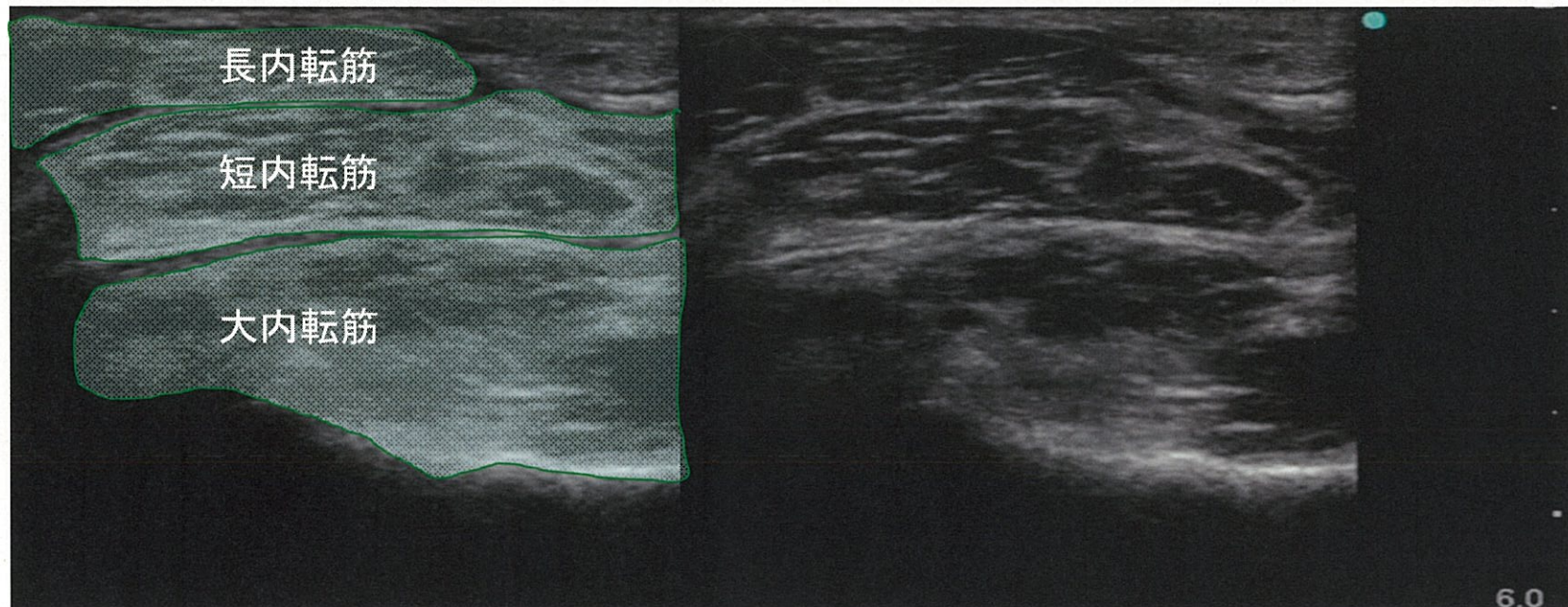
これまでに経験した課題と解決策

【平成25年度】

1. エコーの使用

Thiel法によるSoft fixationを採用

解剖前日に4～10リットルの生理食塩水を輸液





これまでに経験した課題と解決策

【平成25年度】

1. エコーの使用

Thiel法によるSoft fixationを採用

解剖前日に4～10リットルの生理食塩水を輸液

【平成26年度】

1. CT、MRI画像の使用

倫理委員会の承認

気密容器に入れて撮影

水分量の多い部位は1.5T、少ない部位は3TのMRIが適している

2. 虚脱した動静脈の復元

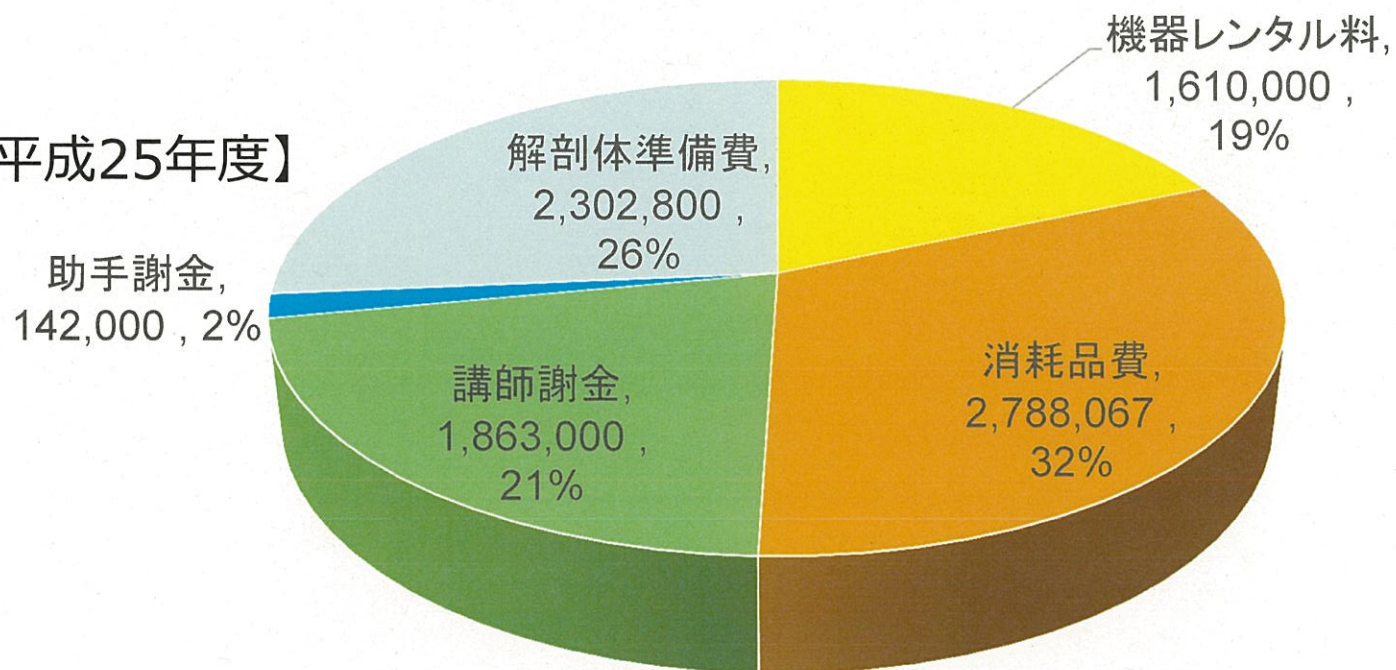
着色シリコンの注入



今後の課題（経費）

平成25年度 委託費：8,707,000円 参加者数：190名

【平成25年度】





今後の課題（経費）

平成25年度	委託費：8,707,000円	参加者数：190名
平成26年度	委託費：5,046,000円	参加者数：256名

1. 一部診療科で有料講習の開催
2. 効率的実習の運営による経費削減

平成25年度：190名／13体（15名／体）

平成26年度：256名／12体（21名／体）



まとめ

1. 毎年70名ずつ参加者が増加
2. 学外参加者は70－80%
3. 参加者の92%は解剖実習の教育効率を認識
4. 参加者の99%は解剖実習の継続的開催を希望
5. シール法で固定し、前日に生理食塩水を輸注することでエコーが使用可能
6. 水分量の多い部位は1.5T、少ない部位は3TのMRIが適している
7. 着色シリコンの注入は虚脱した血管の復元に有効
8. 各診療科の実習開催日を調整することで、オーバーラップして解剖を行い効率的な実習の運営が可能であった。